

平成20年第6回周南市議会定例会一般質問通告一覧表

(平成20年12月4日～9日)

1 得重謙二(刷新クラブ)

1 市の財政運営について

(1) 補助金の対象範囲について

ア 家庭ごみ収集場所の整備費補助金の取り扱い業者一覧に市外業者が含まれている。市内業者の育成支援・地域振興による財政強化の観点から市内業者に限定、もしくは最優先すべきではないか。

(2) 他の補助金についても基本姿勢を問う。

ア 同様なものはないか。

イ 見直し及び総点検してはどうか。

2 武道館の整備について

(1) 整備に関する基本的な考え方はどうか。

2 坂本心次(顕政会)

1 ぬくもりのある地域の観光立市について

(1) 周南再生戦略会議から「観光立市の実現」の答申を受けて

ア 新年度へ向けての具体的な取り組みは。

イ 中山間地域の振興を展望した施策の推進方策は。

(2) 国体を絡めた観光立市について

ア 全国から人が集まる国体は、観光立市のための絶好のチャンス。事前合宿やプレ国体開催においても練習会場などの環境整備が必要では。

3 小林雄二(刷新クラブ)

1 新年度の予算編成の特徴について

(1) 厳しい財政状況が予想されるが、画一的な支出削減は行政への信頼関係を損なう。新年度における特徴的な予算編成のあり方について問う。

(2) 各種の税や料金の収納率向上の取り組みや、行政全体としての節約・省エネの姿勢も明確に打ち出すことが重要であると思うがどうか。

2 学校・幼稚園・保育園・児童館・児童園などの各地域におけるその存在意義と重要性について

(1) 学校・家庭・地域の連携の重要さが言われて久しいが、各地域への存在意義と重要性についてどう認識しているか。

(2) それぞれにおいて、地域で支える「地域力」といったものをどう評価し、将来的なものを検討しているか。

3 市管理の防犯灯、街路照明灯について

(1) 市が管理する防犯灯、街路照明灯についての設置目的及び設置基準はどうか。

(2) 住民要望での市管理の防犯灯、街路照明灯の移設や新設に対応できるか。

4 田村勇一(新政会)

1 菅野湖(菅野ダム)を不法投棄による環境汚染から守ろう

(1) 不法投棄物の一斉撤去作業の実施を。

(2) パトロールの強化、環境整備対策

2 原動機付自転車のナンバープレートをオリジナル化に

(1) 観光立市の一助として、市独自のナンバープレートの発行を。

3 市営住宅の入居優先化について

(1) 若者定住を図るために新婚世帯を優先的に入居させるべき方策を。

4 地域のシンボル「とおの山」にあずまやの設置を

(1) 憩いの場として

(2) 雨や雷の避難対策として

5 西林幸博（刷新クラブ）

1 市街化区域内の農地の負担軽減は

(1) 市街化区域内の農地は、農業振興地域と比較して課税額が平均で、田5.1倍、畑9.3倍と聞く。農業振興地域で農業に従事している家でも収益率は低い。地産地消、自給率アップを目指している行政として、現課税額では荷が重過ぎると思わないか。

(2) 調整策として、荒地は除いて耕作管理されている耕作地は、負担を軽減する補助制度を設ける等、積極的な農政対策を推進する必要がある。

2 公民連携による市営住宅の供給事業

(1) 周南市は現在約4,000の市営住宅を管理しており、さらにスクラップアンドビルドで新規住宅の建設計画がある。一度建設すると耐用年数まで使用しており、大半が老朽化住宅である。古い上に建設・維持管理コストが負担ではないか。

(2) 新たな取り組みとして、民間事業者が建設した賃貸住宅を市が公営住宅として借り上げ、所得の少ない方がかつ住宅に困窮している方に低廉な家賃で提供できないか。土地の確保が不要で効率の良い運営ができる。

3 学校給食費滞納者の徴収担当変更は

(1) 学校給食費の滞納については、それぞれの学校の先生が担当されている。しかし、教育業務ではなく、生徒と先生の立場から見ても本来の姿ではないのではないかと。よって、専門の徴収担当係を設けるべきではないか。

6 土屋晴巳（新政会）

1 第4期介護保険事業計画策定について（特に認知症高齢者対応サービスへの取り組みについて）

(1) 第3期（平成18年度から20年度まで）介護保険事業は計画どおり進んだのか。

ア 被保険者数（第1、2号被保険者数）

イ 要介護認定者数（要支援、要介護認定者数）

ウ 地域密着サービスの充足度

（ア）認知症対応型通所介護サービス

（イ）認知症対応型共同生活介護サービス

(2) 次期（平成21年度から23年度まで）介護保険事業計画の取り組みについて

ア 認知症高齢者数の増加状況と今後の予想

イ 認知症高齢者の増加対策は、次期介護保険事業計画の中にどのように組み込むのか。

2 地域優良賃貸住宅（高齢者型）制度への取り組みについて

- (1) 本市における本制度の住宅・福祉施策の位置づけは。
 - ア 民間活力を活用し、さらに各種補助制度を利用した高齢者用住宅整備は、地域活性化の面からも有効であり、地域福祉力の促進にもつながると考える。
- (2) 供給計画の受け入れ体制の整備は。
 - ア 当該制度の推進に当たっては、各種要綱づくりなど市の体制整備が必要と考えるが、市の取り組み姿勢を問う。

7 田中和末（刷新クラブ）

1 障害者福祉について

- (1) 障害者自立支援法が施行され3年が経過するが、どのような評価をされているか。
- (2) 周南市障害福祉計画第1期（平成18年度から～20年度まで）の中間総括と第2期（平成21年度から～23年度まで）策定に向けた課題は。
- (3) 障害者自立支援法円滑施行特別対策が本年度までとなっているが、今後の方向は。
- (4) 来年度、障害者自立支援法の見直しが図られる予定であるが、利用者の声を集約する場は保障されているか。
- (5) 就労支援のさらなる取り組みを。

2 観光行政について

- (1) 「観光立市の実現」の答申を受けて、今後の取り扱い、日程、道筋、またその位置づけについて、どのように考えているか。
- (2) ホスピタリティカレッジ事業の展開を。
- (3) 「ぼんぼりまつり」再開に向けた支援は。

3 大津島ふれ愛スクール事業について

- (1) 事業展開に当たり、対象者や保護者への説明、在校する学校の相談体制、また大津島地区の住民の皆さんの受け入れ体制は。

4 参道の整備について

- (1) 大迫田墓地の参道について、狭い上、舗装の傷みや路肩の崩れが進んでいる。整備を。

8 長嶺敏昭（参輝会）

1 「観光立市の実現」の答申を受けて

- (1) 進化する観光概念、組織、推進体制への提言が主だが、周南市として答申をどう評価し行動するのか。
- (2) 「観光立市推進戦略室」に関しては、マトリックスな視点を持った人材が必要だが、具現化するとすればどこに求めるのか。
- (3) 民間組織としての「しゅうなんツーリズム協会」は、現観光協会の体質・組織改善と全市的な視点の事業展開を求められているように見えるが、推進体制への見解、行政の役割は。
- (4) フィルムコミッションの設立など具体的な事例を数多く上げての答申が欲しかったが、最終答申なのか。
- (5) 就任願った「周南大志」に、進化する観光概念などを含め、期待するものは何か。

2 祭り・イベントへの助成の見直し

- (1) 合併から5年、地域の実情、実績を勘案し、祭り・イベントへの補助金、交付金、委託料などを再検討する時期と思うがどうか。（増額、減額、新規、廃止を含めて）

ア 財政上、減額の方向であろうが、一律カットなどではなく、投資効果や地域の歴史、運営の実情など冷静に評価すべきだがどうか。

イ 統合できるイベントやさらに助成強化すべきイベントなど、さまざまな観点が必要だが。

(ア) 3カ所の花火大会など類似イベント

(イ) 高額補助のイベントのあり方

(ウ) 持ち回り開催、隔年開催

(2) 助成金を総合支所に枠配分し、権限強化を。

9 長谷川和美（至誠会）

1 12 学校給食センターの安心安全は

(1) 計画の進捗状況と課題は。

(2) 食材調達の安心安全をどうするか。

ア 学校給食センター物資購入チェック機関を。

イ 生産者、JA、卸売市場、納入業者や道の駅の流通サイクルの構築を。

ウ 学校給食から始まる地産地消の推進で、地域経済の活性化を。

(3) 無洗米導入による米飯給食の推進を提案する。

2 熊毛地区への上水の安定供給はいつか

(1) 光地域広域水道企業団からの水利権の分割協議がなされているが、その協議における市の基本姿勢を問う。

(2) 取水開始に至る水道の計画は。

(3) 現在の簡易水道から上水道への統合の方向性は。

10 青木義雄（参輝会）

1 地方分権と道州制

(1) 砂上の楼閣とやゆされていた道州制が現実味を帯びてきた。周南百年の基軸という観点も否定はしないが、直面する課題に全力で対応しつつ、平成26年以降の重要な岐路を踏まえた今後10年、20年先を見据えた議論をスタートさせる時期でもある。

ア 道州制の進捗度をどのように推測されているか。

イ それに対応しての周南市のビジョンや戦略が重要と心得るが見解を問う。

ウ 道州制に対応し強い周南を構築していく上での克服すべき課題は何か。

エ 先行合併の位置づけを中途半端にしてはならない。

オ 一部事務組合や広域連合の共通の問題点はあるのか。

2 市長の陳情活動

(1) 中央集権の象徴の一つが陳情活動であり、独自の行政文化とも表現できる。島津市長が就任されてからの現状を問う。

ア 頻度とコストは、また前市長との比較の中でどのような現状か。

イ 費用対効果という観点からどのような認識を持っているか。

3 周南再生戦略会議の検証

(1) 周南再生戦略会議が2年間という一定の区切りを迎えてのタイミングで検証が不可欠である。

ア 2年間に周南市の重要課題を答申されたが、過酷な日程やプレッシャーもあったと思う。委員の方々には敬意を表するが、市当局としての評価はどうか。

イ 2年間の課題や反省点は何か。

ウ 次年度以降、周南再生戦略会議は継続されるのか。もし継続されるのなら課題や反省点はどのように反映されていくのか。

1 1 金井光男（公明党）

1 下水道事業の現状と今後の課題について

- (1) 下水道事業中期財政計画（平成18年度から～20年度まで）の現状と課題
- (2) 維持管理計画・整備計画の進捗と課題

2 「地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金」について

- (1) 総合対策実施計画の具体的な中身は。

3 地上デジタル放送への円滑な移行推進について

- (1) 高齢者、障害者等へのきめ細かな周知及び支援対策は。
- (2) 低所得者対策は。
- (3) 悪質商法への対策は。
- (4) 大量廃棄が予想されるアナログテレビの不法投棄対策は。

4 高齢者支援対策について

- (1) 高齢者のちょっとした困りごとに対応する支援サービスについて

1 2 中津井求（至誠会）

1 熊毛地区における通学路の現状と問題点について問う

- (1) 自転車通学時の状況と指導について問う。
- (2) 自転車及び徒歩通学に対して、現行の通学路に改善点はないか。
- (3) 通学路（市道呼坂線、西町入口から呼坂橋間200m）の車道と歩道の境界縁石の危険性について見解を問う。

2 熊毛地区「道の駅」の進捗状況と将来展望について問う

- (1) 熊毛地区「道の駅」の進捗状況を問う。
- (2) 道の駅を成功させるには、何が必要か問う。
- (3) 道の駅の将来展望について見解を問う。
- (4) 道の駅整備に当たって、高齢化による農業後継者の減少で、農地の荒廃を招いている現状認識が必要と考える。その認識を踏まえ、今後の対策について見解を問う。

1 3 炭村信義（民主の会）

1 学校図書館活用推進員の検証・研究結果について

- (1) 平成20年度は岐山小学校と富田西小学校に1名ずつ配置をし、1日6時間、1週間4日勤務していただき、その効果や活用方法について、検証・研究している。
 - ア その結果は。
 - イ 平成21年度はどうするのか。

2 地方卸売市場事業について

- (1) 地方卸売市場事業特別会計において、平成19年度の未収金が約5,600万円あったが回収は。
- (2) 最大の滞納者は。

- (3) 平成20年度分の納入は順調か。
- (4) 今後の対応は。

1 4 反田和夫（公明党）

1 学校等におけるアレルギー疾患に対する取り組み、ガイドラインに基づく推進について

- (1) アレルギー疾患の有病率の実態と対応について（ぜんそく、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー）
- (2) 諸症状を正しく理解する「健康教育」について
- (3) 幼稚園、保育園への働きかけの周知について

2 教育現場での保護者と教師の関係について

- (1) 保護者からの学校側に対しての要望について問う。
 - ア 周南市の幼稚園、小中学校のトラブル等の実態を問う。
 - イ あるとすれば具体的内容とその発生状況について
 - イ トラブルを未然に防ぐため、保護者への対応のマニュアルは作成されているのか。

3 高齢者福祉について

- (1) 周南市の認知症の方の実態及びその対策と認知症の予防について問う。
- (2) 高齢者虐待防止法が2006年4月より施行されているが、周南市における実態の把握と対策について問う。
- (3) 「子どもヘルパー」導入について

1 5 吉平龍司（公明党）

1 行政改革と財政運営について

- (1) 「行政改革大綱」の進捗と今後の取り組み
- (2) 景況変化による今後の財政運営への影響は。

2 交通問題への対応、対策について

- (1) 遠石地区の交通安全対策について
 - ア 県道下松新南陽線の青山町交差点の改良
 - イ 市道大迫田代々木線の整備状況と展望
- (2) 歩道の歩行空間のバリアフリー化で、歩行者や自転車の安全・快適な生活環境改善への道路整備の推進
- (3) 市の生活交通活性化事業の取り組みの現状

3 文化行政及び振興の取り組みについて

- (1) 市民への優れた文化芸術に触れ合う機会づくり
- (2) 市総合スポーツセンター利用に際しては、アマチュアスポーツと同料金等で文化諸活動による利用希望者に施設利用の門戸を開いてほしい。

1 6 尾崎隆則（顕政会）

1 道路整備事業について

- (1) 合併特例債の適用も残り5年となった。合併前に協議会で決めた新市建設計画は、市長の交代があっても、守らなくては市民を無視したことになる。特に道路整備は市民生活に一番密着した問題と受けとめられる。

- ア 市道の整備についての考えを問う。
- イ 新市建設計画に盛り込まれている道路整備は、計画的に進められているのか。
- ウ 新たな整備事業が要望されたときの対応はどのように考えているのか。

2 道路維持費について

- (1) 厳しい財政状況ということは、市民の皆様にはなかなか理解が難しいのが現状である。
 - ア 維持費の4分割方式の成果は。
 - イ 市民からの要望には対処できているのか。

3 学校給食センター建設について

- (1) 栗屋、新地、高尾の3センターについて、用地の確保はできたのか。
- (2) 合併特例債は適用となるか。
- (3) 21年度の計画を問う。

17 小坂玲子（至誠会）

1 障害者用駐車スペースについて

- (1) 障害を持つ方が、駐車していることが明らかになるような具体的な施策は検討できないか。
- (2) 公共施設の障害者スペースは確保できているか。

2 図書館及び美術館の休館日について

- (1) 図書館、美術館の各休館日は、すべての市民に平等になっているか。
- (2) 新しくできる（仮称）コアプラザ熊毛内の図書館の休館日設定はどのようになるか。

3 学校給食について

- (1) 給食時に、マイはし、マイスプーンの導入をしてはどうか。
- (2) 個々に準備するナプキンを他市において好評なプレートにしてはどうか。

18 高松勇雄（民主の会）

1 介護保険制度の保険料の段階設定について

- (1) 当市における介護保険制度の現状の問題点は。
- (2) 給付等サービスの状況は他市に比べてどうか。
- (3) 6段階の設定を10段階程度に細分化し、所得応分の負担割合を設定できないか。

2 心身障害者扶養共済制度について

- (1) 制度改正が行われ半年が過ぎるが、扶養共済の当市における現状はどうか。
- (2) 支払われる共済年金が所得として加算されるため、施設利用料等の減免が受けられない状況があるが、市は何らかの対処ができないか。
- (3) 本年4月から掛け金が上がり、ますますの高負担を強いられている状況でありながら、一たん脱退すると再加入が新規扱いとなる制度のあり方について、市の考え方と掛け金の補充等の対処はどうか。

3 公共施設の照明器具のエコ化について

- (1) 現在の電気料金やメンテナンス料金の状況はどうか。
- (2) 新設時や交換時に長寿命・省エネルギー・省メンテナンスの照明器具の使用はできないのか。
- (3) (2)によって所得のない青少年の施設使用料、利用料、照明料が免除にできないか。

19 井本義朗（周南会）

1 スポーツ振興について

(1) より多くの市民がスポーツに親しむために、体育館・競技場・球場・テニスコート等、市のスポーツ関連施設の一般開放の利用促進について問う。

ア 現在、主な市内スポーツ関連施設の利用状況、稼働率は。

イ 各施設の料金体制、空き情報の市民への提供の方法、利用予約の受け付けはどのように行っているのか。

ウ 小中学校の体育館、運動場等の施設についての一般市民からの利用受け付けはどのように行い、またその利用状況はどうか。

エ 市内各施設の利用情報を一元的に管理し、サイトで料金から空き情報まで閲覧、予約までできるようなシステムはつukれないか。

(2) 技能や知識の高いスポーツ愛好者を学校教育へより積極的に活用できないか。

2 保育所の配置について

(1) 西部3地区（湯野・戸田・夜市）には保育所の施設がないことにより、主に新南陽地区の保育所に子供を預け、今度はその地区の保育所の定員を圧迫している。こうした市内の状況を解消し、保護者の方が安心して子供を預けて働きに出られるような対策が急がれると思うがどうか。

3 小中学校の通学区の適正化について

(1) 合併前からの旧来の通学区を全面的に見直し、現状に合った適正な小中学校の通学区の再編が必要と思うが、市の考えはどうか。

20 西田宏三（周南会）

1 魅力あるまちづくりの一環として

(1) 都市計画道路徳山停車場線の早期着工に向けて

ア 小川市政からの懸案事項であるこの線が、未整備であるがなぜか。

イ この線の歴史的背景を考えるに、住民説明会を行い、その後の経緯は住民の方々には全然聞こえてこない。無責任ではないか。

ウ 廃止か継続か、この際もう一度地域の方々には説明が必要ではないのか。

(2) 通学路として位置づけ、道路新設を始めた市赤迫線について

ア リーディングプロジェクトにも記載されている市赤迫線を途中でとめたのはなぜか。

イ 今まで投入された金額は幾らになるのか。

ウ 2年前にルート変更ということで、調査費を計上されたが、結果はどうか。

エ 市の単独工事であるが、県と話はできないのか。

21 中村富美子（日本共産党）

1 介護保険制度について

(1) 来年度は介護保険の見直しの年だが、

ア 保険料の基準額の見直しは。

イ 保険料の所得階層は現行6段階だが、不公平のないよう段階区分を細分化すべきではないか。

2 新南陽地区の雨水対策について

(1) 新南陽の南部地区に残っている田んぼの開発が進み、線路以南や天井川地域では、冠水することがしばしばで住民は不安である。

ア 雨水幹線が整備されているのは何路線か。全体計画に対する整備率は。

- イ 開発を許可する場合、雨水排水の指導はどのようにするのか。
- ウ 各雨水ポンプ場の能力はどうか。
- エ 新南陽地区で早急な雨水対策を講じなければならない箇所は。

3 合併検証について

- (1) 市長は昨年6月21日の市政運営にかかわる所信の中で、合併検証チームを設置し、検証を行うと言われたが、進捗状況とその結果は。

4 市民アンケートについて

- (1) 9月から10月にかけて6,500人を対象に、まちづくり総合計画後期基本計画の策定における市民アンケートを実施したが、
 - ア 調査結果は。
 - イ 結果から見えてくるものは何か。
 - ウ 調査分析結果を今後どのように市民生活の向上に反映させるのか。

5 通級指導教室について

- (1) ことばの教室に校区外通級させている保護者は、巡回指導を希望している。検討できないか。

2.2 徳原尚一（参輝会）

1 学校施設の整備について

- (1) 学校施設の耐震化に取り込まれるが、耐震化工事はどのような工事になるのか。また、耐震化完了までの計画を問う。
- (2) 学校施設の修繕費は、財政上厳しいことは理解しているが、現状を調査され適当であると思われるか。

2 学校との地域連携について

- (1) 学校へのボランティアの受け入れの現状はどうか、ボランティアの受け入れの考え方を問う。
 - ア 修繕について
 - イ クラブ活動について
- (2) コミュニティスクールの研究指定校の現状と検証、今後の必要性は、どのように考えているのか。
- (3) 小中学校PTA連合会が組織されようとしているが、市の具体的支援は何か。また、今後の連携はどのように考えているのか。
- (4) 小畑小学校の使用、活用状況はどうか。今後の具体的活用は考えているのか。

2.3 形岡 瑛（日本共産党）

1 財政の見通しと今後の事業展開について

- (1) 景気の悪化も踏まえた今後の財政の見通しはどのようなものか。
- (2) 大型事業の見直しが必要ではないか。
 - ア 中心市街地活性化・徳山駅周辺整備事業
 - (ア) 大型商業施設の進出は、いよいよ絶望的ではないか。
 - (イ) 徳山駅周辺整備事業は、最低限の利便性向上、バリアフリーにとどめること。
 - イ 道の駅について
 - (ア) 実証実験の経過はどうか。（西部地区及び熊毛地区）
 - (イ) 最終的な事業費の見通しは。

(ウ) 周南の土壤にあった地道な特産品の開発研究に重点を移すべきだ。

(3) 学校給食センター建設計画について

ア 5年間で12センターを建設するという計画の妥当性について再検討すべき。

(ア) 合併特例債を理由にしての集中投資は危険である。

(イ) この5年間では緊急性の高い徳山東、熊毛センター更新にとどめること。

(ウ) その他は学校施設改修の時期と統一して、長期計画で整備していくこと。

(エ) 大津島のみならず鹿野、中須についても現在の施設を存続させること。

(4) 福祉、教育、医療、住民生活へのしわ寄せをしないこと。

2 保育の充実のために

(1) 臨時・嘱託保育士の処遇改善について

ア 昨年6月議会の質問で改善する必要があるとの認識が示されたが、その後の検討は。

イ 今年8月の人事院勧告における「非常勤職員の給与決定に関する指針」などに準ずる改善を検討しているか。

(ア) 賃金、一時金、年休

(イ) 交通費で正職員との格差をつける根拠は何か。同一にすべきである。

(ウ) 休憩時間が確実にとれるように。

(2) 正職保育士の定員をふやして正常化を図ること。

ア 臨時・嘱託保育士が半数を超えるという事態を異常なものと認識しているか。

イ 恒常的に必要な人員は正職員にし、臨時的に必要な人員との区別を明確にする方向性を確立すること。

3 大津島刈尾海水浴場の砂公害について

(1) 少数であっても被害を受ける住民の訴えを聞くべきでは。

(2) 防砂林などの有効な対策が必要

2 4 岩田淳司（参輝会）

1 クリーンなまちづくりに向けて

(1) 地域の自治会の協力が不可欠と思われるが、その体制は整ってきているのか。

ア クリーンリーダー研修等の検討は進んでいるのか。

(2) クリーンなまちづくりの推進活動に向けて、まずごみ出し問題などにおいて、その問題点の洗い出しが必要ではないか。

ア 自治会未加入者のごみ出しの問題、アパート入居者の自治会加入問題及びそのごみ出しの問題への対応はどうか。

イ 上記を受けての不動産業界などへの協力依頼はされているのか。

(3) 他の都市で見られるような路面の上の「たばこポイ捨て禁止」等の路面印刷等が効果的ではないか。

2 里帰り出産における保育園入園について

(1) 現在の制度とその利用状況はどうか。

(2) 他市からの里帰りまたは他市への里帰りの後、産後にそれぞれの住所地に戻るときに、待機児童の問題で再びもとの保育園に入れられないということがあるが、根本的に見直す問題なのではないか。

2 5 藤井直子（日本共産党）

1 介護保険制度について

(1) 日本共産党周南市議団は、市内の介護保険施設、事業者にアンケートを実施して、市への要望を聞いた。利用者も事業者も安心でき、展望の持てる介護保険制度にするため、以下のように要望をまとめ、回答を求める。

ア 申請

(ア) 窓口で申請する意欲をなくすような対応をされた。

イ 認定

(イ) 認定審査会の審査基準を明確にして、チームによる格差が発生しないように、委員の研修等をお願いする。介護給付と予防給付の区分けの際の判断をきちんとできるように。

(イ) 認知症や認知症を介護している実情の究明をもとに、認定を見直してほしい。

ウ 困難事例に対する市の対応

(ウ) どうにもならないケースに、積極的に介入してほしい。最終的にケアマネジャーの責任にしないほしい。何でもかんでもケアマネジャーへというのは、間違いではないか。

(イ) 困難事例の利用者を担当したケアマネジャーは、その家族に振り回され、ストレスをためてしまう。市や包括、主任ケアマネジャーから後方援助を受けるが、解決策がない場合は、市が利用者家族へ説明をしてほしい。

エ 現場

(ア) 実際の現場を市の職員、認定調査員の皆に体験してもらい、どんなに大変で困難か見てほしい。机上での話し合いや書類上では決して理解できているとは思えない。

オ 生きがいデイサービス

(ア) 生きがいデイサービスや特定高齢者支援の報酬を上げてほしい。

(イ) 市の補助単価を上げてほしい。

カ 訪問介護

(ア) ヘルパーを利用するとき、院内介助してもらえない同居家族がいたら家事援助してもらえないことに、利用者の多くが困っている。

(イ) 介護保険の使い勝手が悪い。主に家事援助の内容が制限されている。

(ウ) ヘルパーが行ってはいけない家事援助がある。

(イ) 時間が不足している。ヘルパーができないことが多い。窓ふき、庭の草引きができない。

(イ) 散歩ができないので、筋力が低下し、外出機会がなくなり、歩けなくなり、認知症が進むケースあり。

(イ) 家事援助サービスは、利用者負担は安く利用者も楽であるが、自立を促すため一緒に家事をすれば身体介助となり、利用料は高くなるし利用者も不自由な身体で家事をしなくてはならない。自立支援しない方が、利用者の負担が少ないというのはおかしい算定方法だ。

キ 交通費

(ア) 周南市は、山間部から島までと範囲が広い。遠方や島への交通費は経営上負担が大きい。市の補助を。

2 障害者の雇用について

(1) 市内の民間企業は、法定障害者雇用率を達成しているか。

3 ごみ収集について

- (1) ハッピーマンデーの燃やせるごみ収集は、年間を通して行ってほしいという市民の声がある。

2.6 兼重 元（至誠会）

1 国際友好・姉妹都市交流のあり方

- (1) 中国シ博市との関係をどう進めるのか。

ア 真の目的は何か。

イ 今後、友好・姉妹都市提携まで進めるのか。

- (2) 現在、国際姉妹都市のサンベルナルド・ド・カンポ、タウンズビル、デルフザイル各市について

ア どう評価しているか。（交流活動と参加者のそれから）

イ 今後どう深めるのか、見直しの必要はないか。

2 小中学校関係で問う

- (1) 小中学校統廃合計画はその後、具体的に進んでいるのか。

- (2) 新たに学校安全管理の専任者の確保はどうか、見解を問う。実務として営繕、構内巡視、安全意識の啓発ができる人。（例えば山口市の場合）

3 危険ため池の改修と地域防災計画

- (1) 地域防災計画に伴う貯水機能廃止ため池の切開（堰堤のレベルを下げる）と下流域の河川、水路断面確保について、坂根町、花見ヶ迫ため池の例から見解を問う。

2.7 久保忠雄（周南会）

1 遊休農地、耕作放棄、荒らしづくり等農家の担い手問題

- (1) 周南市の各地、農家の高齢化が進み遊休農地、耕作放棄、荒らしづくり等の増加等で、担い手不足で将来が見えない状況である。食の安全、安心、食料自給率の低下、さらには環境問題など農業農村を取り巻く情勢は大変厳しいものがある。食料、農業、農業基本計画の方向に沿い、認定農業者や集落営農組織等を中心とした担い手としての農業経営者の育成の手助け等、行政の役割はどうなっているか。またその中であって、努力している人も手探り状態ではないのか。

- (2) 現在、農業法人をつくっているところは市内に幾つあるか。またそれをつくる方向で努力しているところは幾つあるのか。行政からの支援はどうなっているのか。

2 ツルの保護対策について

- (1) 前回にもお聞きしたが、友好都市の調印も済み、2羽の飛来があったので何とか格好がついたが、将来のことを考えると保護活動を考え直すときが来ていると思う。岡山県のタンチョウの保護方法を参考にするときに来ていると思うがいかがか。